

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における 阪南中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年 4 月 24 日（水）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・阪南中学校では、3 年生 238 名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大 阪 市 立 阪 南 中 学 校

生徒数

238

平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	81.0	69.7	71.4	49.8
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	1.2	2.1	3.8	13.7
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

結果の概要

○「教科に関する調査」の結果は、国語、数学においてA・B問題ともに、平均正答率が全国の平均を2.3～8.3ポイント上回っている。昨年度と比較すると、全国平均との差は3.6～5.3ポイント上昇している。また、平均無解答率は全国平均に比べ低く、昨年度より特に国語Aが2.6ポイント、国語Bが3.3ポイント下回った。

○「生徒質問紙調査」の結果は、昨年度と同じ傾向で、基本的な生活習慣、自尊感情、ルールやマナー、豊かな心等の設問で、肯定的な回答の割合は大阪市や全国の平均に比べ高い。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

<これまでの取組の成果>

○学校の秩序維持のため、生徒に集団でのルールやマナーを身に付けさせることを目標に取り組み、一定落ち着いた状況の中で、真面目に取り組む姿勢が成果として表れた。

○生徒の学習意欲を向上させるため、教科指導内容の工夫・改善に取り組んでいる。国語科では文法を中心に個に応じた指導の充実を図り、数学科では演習問題を多く取り入れ、基礎的な学力の定着に努めている。

○各教科で多様な言語活動を展開するとともに、朝の読書週間の設定や図書室開館の時間拡張により、言語力の育成に努めている。

<今後取り組むべき課題>

○進んで学習に取り組む姿勢を身に付けさせるため、個に応じた指導の充実を図る。

○ICT機器を活用した「わかる授業」を効果的に進める。

○教員の授業力向上のため、授業研究を伴う研修の充実を図る。

○今回の調査結果を国語科、数学科はもとより、学力向上委員会でも過去の調査結果と経年比較しながらさらに詳しく分析し、次年度の取組みにつなげていく。

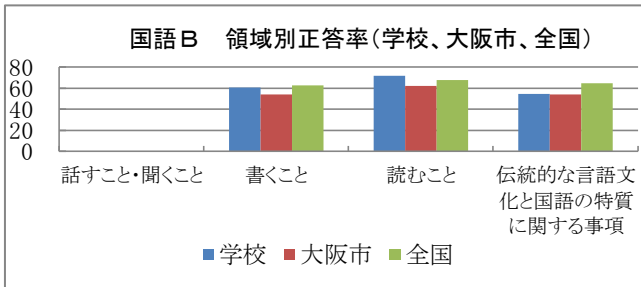
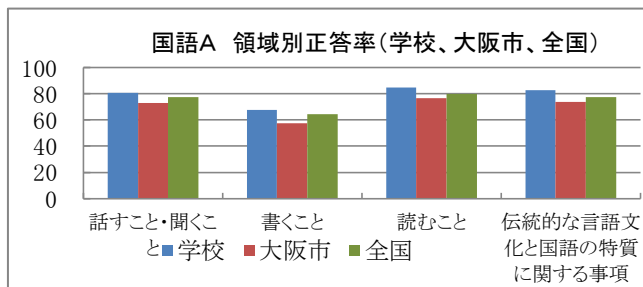
【国語】

結果の概要

平均正答率は、A問題が4.6ポイント、B問題が2.3ポイント全国平均を上回っている。4領域別では、A問題は全て3.2～5.3ポイント全国平均を上回り、B問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は大阪市平均を0.4ポイント、それ以外の2領域は2.3～3.8ポイント全国平均を上回っている。全体的に無解答率は低い、自分の考えを具体的に書く問題は無解答率が高くなる傾向がある。これは、生徒質問紙の結果からも見受けられる。

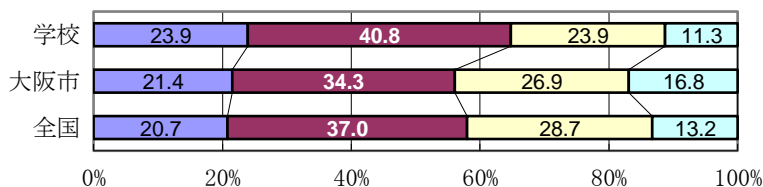
A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	80.8	73.1	77.6
	書くこと	4	67.6	57.3	64.5
	読むこと	6	84.9	76.8	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	82.8	73.9	77.5

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	60.4	54.0	62.7
	読むこと	8	71.6	61.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	54.6	54.2	64.6



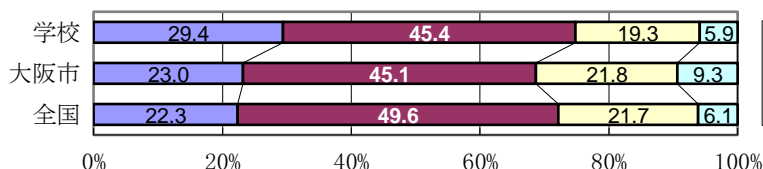
国語に関する「生徒質問紙」

I 53 II 52 III 63
国語の勉強は好きですか



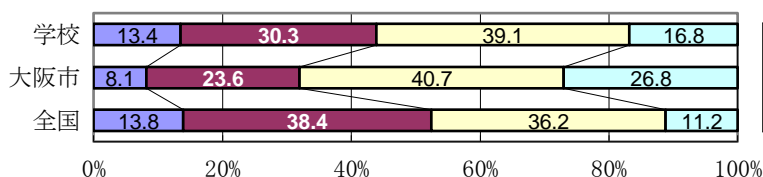
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

I 55 II 54 III 65
国語の授業の内容はよく分かりますか



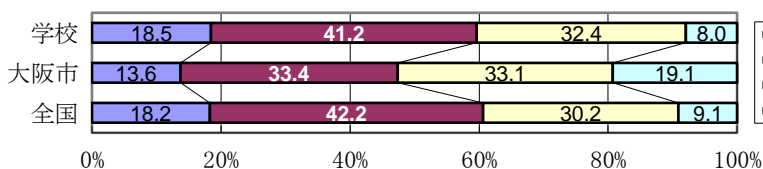
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

I 58 II 57 III 68
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

I 60 II 59 III 70
国語の授業で自分の考えを書きとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

成果と課題

教科打合せを充実させ、生徒の興味・関心を引く指導法の工夫・改善に取り組んでいる。その成果として、生徒質問紙調査で「国語の勉強が好き」「国語の授業がよく分かる」と回答する生徒の割合が増えている。基礎学力が定着できていない生徒への個別の指導を充実させる。文章で解答する問題への力をつけさせ、学力の向上を図ることが課題である。

今後の取組

習熟度別少人数授業やTT等、個に応じた指導を充実させ、学習意欲を喚起させる授業づくりに努める。国語科以外の教科や様々な教育活動を通して、多様な言語活動を展開する。教員の研究授業・研究協議の回数を増やし、授業力向上を図る。

【数学】

結果の概要

平均正答率について、A問題は7.7ポイント、B問題は8.3ポイント全国平均を上回っている。4つの領域別では、A問題は7.3～8.4ポイント全国平均を上回る。B問題は2.5～12.2ポイント全国平均を上回り、特に「数と式」「図形」の領域が12ポイント以上であり、よくできている。全体的に無解答率は低いが、資料の傾向を的確にとらえ、数学的に説明する設問は無回答率が高い。
生徒質問紙の結果からは学習に前向きに取り組んでいる様子が見える。

A 問題

平均正答率(%)

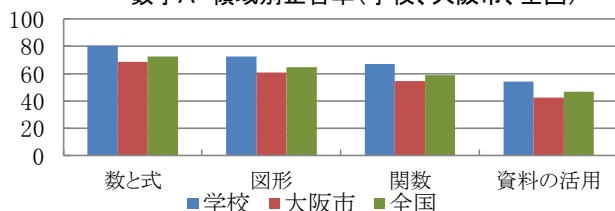
学習指導要領の領域等			学校	大阪市	全国
	数と式	11	80.2	68.6	72.7
	図形	12	72.4	60.8	64.6
	関数	9	67.1	54.7	58.7
	資料の活用	4	54.1	42.3	46.8

B 問題

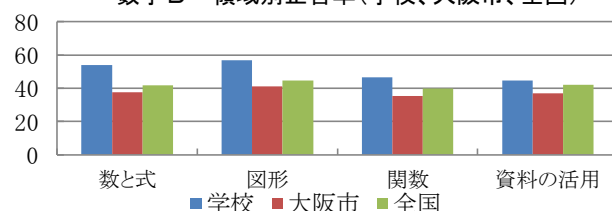
平均正答率(%)

学習指導要領の領域等			学校	大阪市	全国
	数と式	5	53.9	37.6	41.7
	図形	2	56.9	41.0	44.8
	関数	6	46.6	35.4	40.0
	資料の活用	3	44.7	37.1	42.2

数学A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



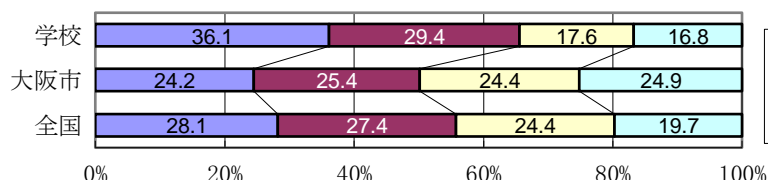
数学B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



数学に関する「生徒質問紙」

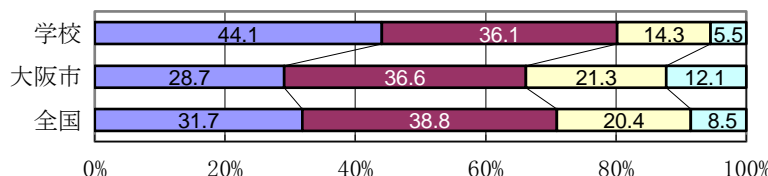
I 73 II 62 III 73

数学の勉強は好きですか



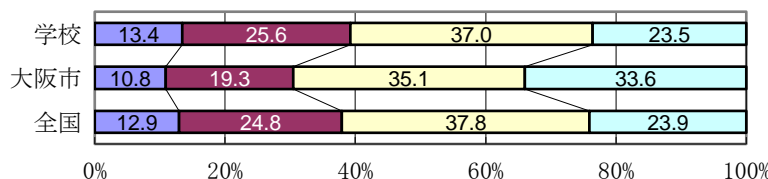
I 75 II 64 III 75

数学の授業の内容はよく分かりますか



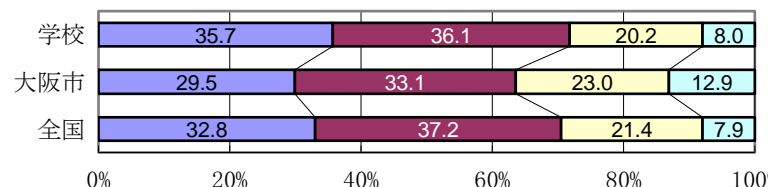
I 78 II 67 III 78

数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 81

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

昨年度より、「数と式」の領域で平均正答率が高い傾向である。計算の反復練習などにより、基礎的な学力は身につけており、上位層の割合は高い。

数量関係を文字に表すことや事象を数学的に捉えることや資料の活用に課題がある。

今後の取組

TTや習熟度別少人数授業等、個に応じた指導の充実を図り、わかる授業づくりに努める。
計算の反復演習などで基礎学力の定着を図るとともに、応用力を高める教材の工夫・精選を行う。
教員の研究授業・研究協議の回数を増やし、授業力向上を図る。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

概ね昨年度と同じ傾向が見られる。

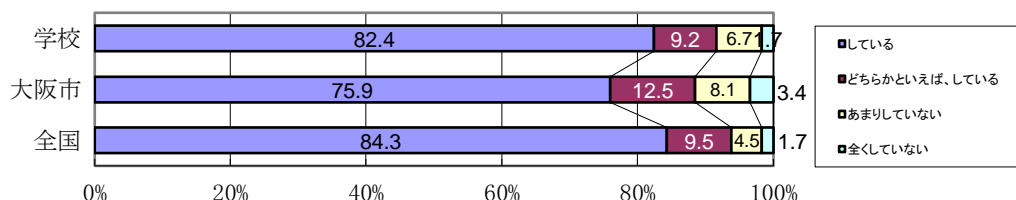
○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に肯定的な回答(している・どちらかといえばしている)をした生徒の割合は、ほぼ全国平均と差はなく、大半の生徒が正しい生活習慣が身についているといえる。

○「自分には、よいところがありますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は、全国と比べて上回っている。

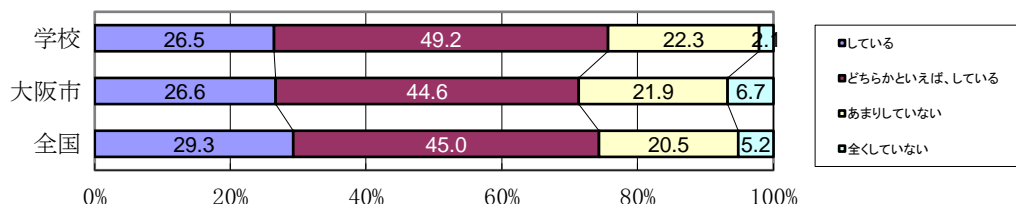
○「学校の規則を守っていますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は、全国と比べて差はほとんどない。

質問 番号	質問事項
----------	------

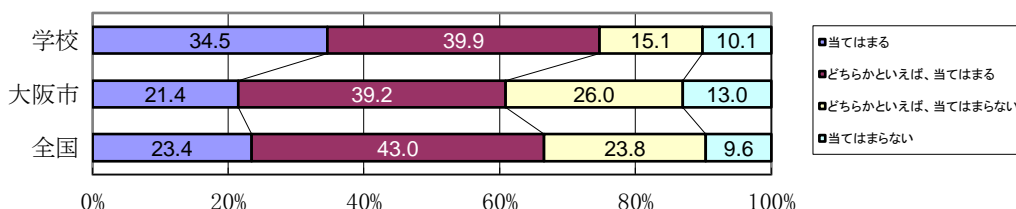
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



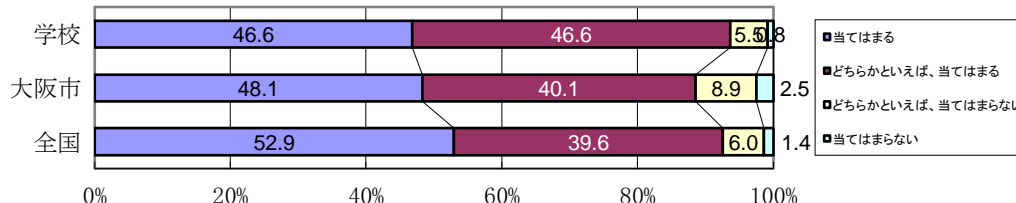
I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 45
学校の規則を守っていますか		



成果と課題

生徒たちが規律ある学校生活を送れるよう取り組んだ成果であると考えられる。

基本的生活習慣について、朝食の摂食は大きく改善されたが、睡眠については通塾やケータイやスマホの利用率の高さなど不安定な要素も見られる。自尊感情の醸成については大きく伸びているが、4分の1の生徒が否定的に捉えており、「わかる」「できる」喜びを味わせる指導を継続して行う必要がある。

今後の取組

学校の秩序維持のために取り組みを進めるとともに、生徒の心に寄り添う指導を継続しておこなう。

道徳の学習内容を工夫・改善して、生徒に豊かな人間性を身につけさせる。

ホームページなどを通じ学校から広く情報発信し、保護者や地域との連携を深める。

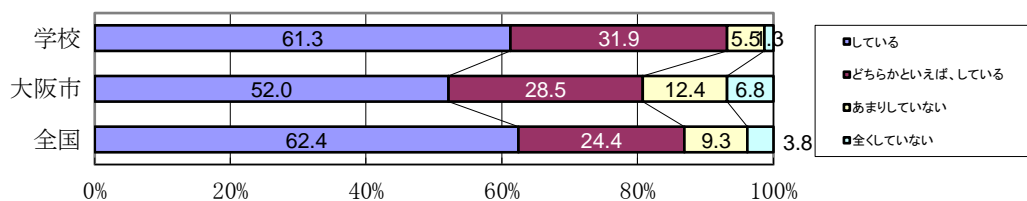
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

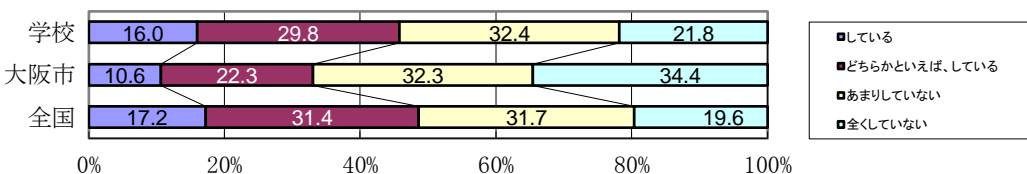
○「宿題をしていますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は9割を超えているが、「復習をしていますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は5割に届いていない。
○「読書は好きですか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は全国平均よりやや下回るが、年々伸びてきている。
○授業については、「意見を発表することや文章に書くこと」は全国平均に比べ難しく思っていない生徒の割合が高いが、「話し合う活動」は少ない。

質問 番号	質問事項
----------	------

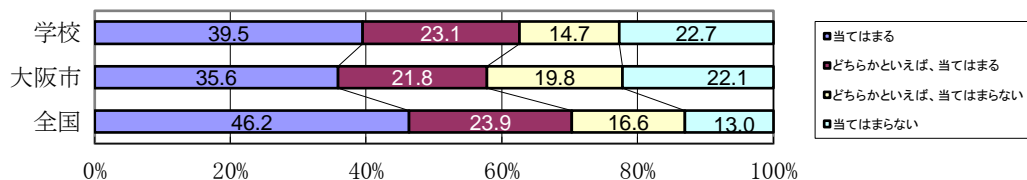
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



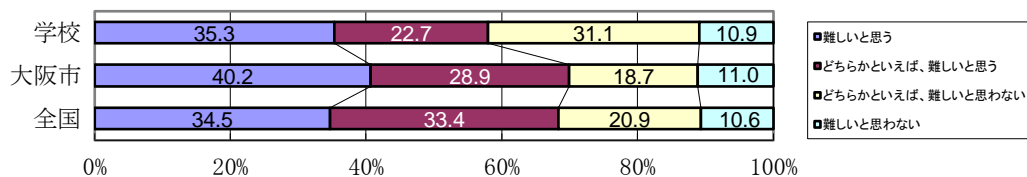
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



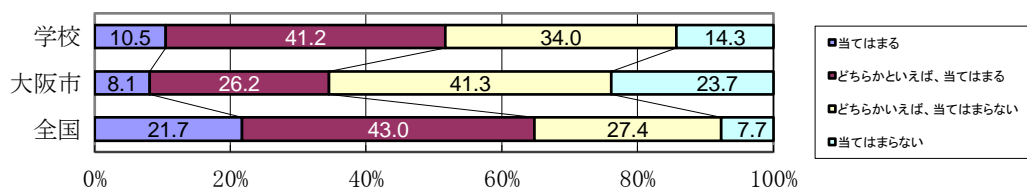
I 56 II 55 III 66
読書は好きですか



I 52 II 51 III 61
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57
普通の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

与えられた宿題については家庭で取り組んでいるが、自ら課題を見つけ積極的に家庭学習を行う姿勢が身につけていない生徒が多い。自主的・計画的な家庭学習の定着が課題である。
読書については、読書週間の設定や図書室開館の時間拡張により、昨年より増加してきている。

今後の取組

家庭で自主学習が習慣化するように指導するとともに、保護者への啓発や元気アップ事業との連携を深める。
朝読書や図書室開館日の増加など、取り組みを充実させる。
自分の意見発表や話し合い、調べ学習などの授業改善に取り組み言語力の育成に努める。